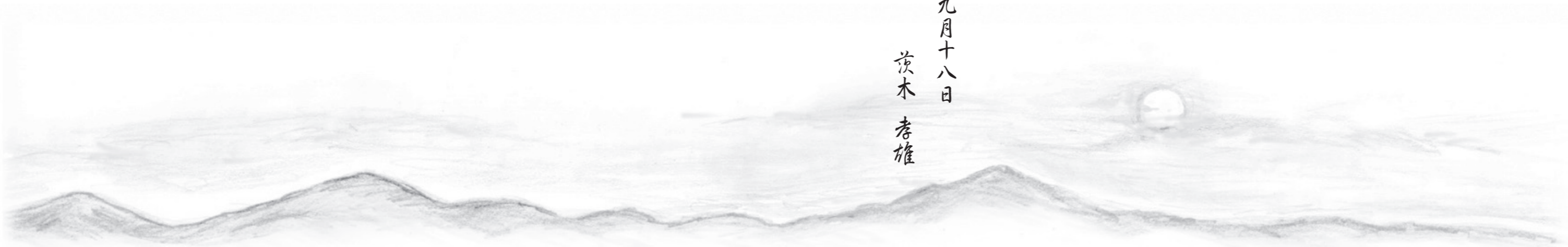


青い月の謎

二〇一〇年九月十八日

茨木 孝雄



『月光微韻』

月の夜の
羅漢柏の
なんとなき
春の幽けさ。
月の夜の
煙草の煙
匂のみ
紫なる。
星よりも
ほのかなものは
みどり児のほほえみ、
ついたち二日の月。
露けきは月の夜にして、
竹の根の
竹煮草の葉。
月の夜に
影するものの真近さ
花ちり方の椎の木

北原白秋（一九二二）

人声の
近づきて、
明るか、
月の野茨。
月の夜の
白い白い木樅に
影さすものは
笹の葉。
そよかぜにも
小竹のゆるるか、ゆるるか、
月の夜の雀よ。
月の夜に
雫するもの
霽れやらぬ椎の狭霧。
月照る野路の明さにて、
など啼きやまぬ、
鶉よ。

蝶の飛ぶ
水田明り、
その末は
月の夜の海。
月の夜の
星の淡さ、
見え来る声の
幼なさ。
ありありと
現はるる風、
夜のふけの孟宗の月。
月の夜の千鳥
見えて啼けとの。
月の夜の
見えの薄さ、
風の吹く道、
星の間の線。
月のあなたの漣、
夜ふけて、
わたる人あり。

月の夜の
薄翹かげろふ、
白芥子の
空に舞へよ。
月かげすらも
痛からむ、
明日ひらく紅き蓮の
蕾の尖よ。
頼むは明日の星、
にほへよ月の椎の木。
木の花の
ほのかなる、
梢のみ
月に光らせて。
月夜の櫃、
かやの実が青うつくかよ。
風高し、あはれ、
影無うして、月に開く窓。

『水墨集』より